

## 講演者・報告者略歴 (市町村長はのぞく)

### 川勝平太 (かわかつ・へいた)

1948年、京都生まれ。オックスフォード大学哲学博士。早稲田大学政治経済学部教授を経て、1998年より国際日本文化研究センター教授、オーライ！ニッポン会議運営委員会副代表。国土審議会委員。専門は比較経済史。歴史の大きな枠組みについて常識を覆す斬新な「文明の海洋史観」を提唱。また、21世紀の日本文明ビジョンとして「富国徳論」を唱え、美しい国土を持つ世界に誇りうる日本列島、庭園の島(ガーデンアイランド)構想を提唱。

### 大石久和 (おおいし・ひさかず)

1945年、兵庫県生まれ。1970年に京都大学大学院工学研究科卒業後建設省入省。1999年に道路局長を経て、2002年には国土交通省技監。退職後の現在は国土技術センター理事長。国土に働きかけるインフラ整備とその恩恵の体系、社会資本整備の哲学である「国土学」を提唱。「道の駅」制度化の推進者でもあった。

### 野村輝之 (のむら・てるゆき)

1941年、旭川生まれ。北海道学園大学経済学部卒業。元札幌市職員 1984年教育委員会退職。ヨット歴35年、剣道教士6段。1997年6月1日から2000年7月16日までの3年間、北海道・室蘭港を発着する3年間の世界一周の旅を実施。著書：『風と海と仲間たちシーガル号世界一周航海記』。現在、シーガルマリン企画代表。北海道一周ルートの実行責任者。

### 吉川公一 (きちかわ・こういち)

1942年、新潟生まれ。元新潟県小国町太郎丸郵便局長。現在、新潟県外洋帆走連盟顧問、新潟県柏崎ヨット連盟副会長、日本海いるかプロジェクト代表。1992年設立された環日本海ネットワークを立ち上げ、ロシアを含めヨット界に多くの人脈を持つ。最近では佐渡海峡いるかうatchingクルーズやヨットの体験乗船等、海を介した交流で精力的に活動している。本州西ルート実行委員長を担当。

### 河井達志 (かわい・たつし)

宇宿商店街振興組合理事長、鹿児島商工会議所青年部相談役、株式会社カワイ代表取締役社長。鹿児島の熱血まちづくり。鹿児島地域で「まちの駅」の実験が始まっており(16年度約

40箇所)、その世話人代表。九州一周ルートでの九州実行委員長。

### 古川勝三 (ふるかわ・かつみ)

1944年宇和島生まれ。松山市立高浜中学校長を16年3月に退職。ヨット歴42年。退職後はヨット三昧と思っていた時に、日本ぐるっと一周・海交流プロジェクトに遭遇、四国一周実行委員長を引き受ける。四国一周後、「海四国・みなと(海の駅)八十八ヶ所」を提案。

### 白石ユリ子 (しらいし・ゆりこ)

1933年、北海道生まれ。出版社で日本人の伝統文化、生活文化に関わる書籍を多数編集。1993年ウーマンズフォーラム魚(WFF)発足、代表を務める。情報誌「おさかな通信・gyo!」編集長。海から食卓にいたる関係者のシンポジウムや、漁業と食文化を体験的に伝える「浜のかあさんと語るう会」主催。子供への海と魚教育等を推進している。

### 糠谷真平 (ぬかや・しんぺい)

1941年生。東京大学教養学部卒業。1963年経済企画庁入庁。長官官房秘書課長、国土庁計画・調整局長、経済企画事務次官などを歴任。地域連携軸を提唱。現在は国民生活センター理事長。NPO法人地域交流センター理事。

### 田久保雅己 (たくぼ・まさみ)

1953年、千葉県津田沼生まれ、東京育ち。明治学院大学時代はヨット部に所属、主将としてクルージングやレースで活躍。卒業後はヨット・ボート専門出版社(株)舵社に勤務。現在は取締役編集局長。取材活動を通じて訪問した国は20カ国以上におよび、内外のマリン事情に精通。日本ぐるっと一周・海交流顧問。

### 長野章 (ながの・あきら)

元水産庁漁港漁場整備部長。退官後は、はこだて未来大学情報アーキテクチャ学科教授。専門分野は地域振興、水産土木、海にかかわる産学連携等。現役の役人時代、漁村・漁港の活性化策に力を注ぎ、今なお関心が高い。

## 会場案内

タイム24ビル (東京都江東区青海2-45 TEL: 03-5531-0027)

新交通ゆりかもめ(新橋より18分)テレコムセンター 下車、徒歩2分

りんかい線(大崎から11分、大井町から8分、新木場から7分)東京テレポート下車、無料バス3分

埼京線りんかい線直通(渋谷から18分、新宿から23分、池袋から29分)東京テレポート下車、無料バス3分

(土・日・祭日運休)

